

朝日前衛：荒川大沢川

2013年8月13日

宗像（L）、山崎、青木

転進と角檜沢 12 時間行軍の疲労蓄積から 3 日目はツメのない荒川赤芝峡西側支流の大沢川を宗像顧問が選定遡行した。6 月下流部を下見貧素な出合の記憶しかなかったが、その奥は美滝が続く連瀑帯で構成され、出合の様相から全く想像できない、上越と錯覚する荒川の秘められし「大当たり」の沢だ。溪は標高 170m 位まで木々に覆われ陰気臭いコケむす低いゴルジュに登れない小滝とゴースト、堰堤が続く。標高 185m で右岸から落差 30m 以上あるスラブ滝を持つ支流を越すと溪は一気に開放される。標高 385m の大スラブ帯の大滝まで息つく暇もなく 5m~20m の斜瀑の連瀑で構成される美溪に激変する。いづれも美滝で思わず見惚れ時間を忘れてしまいそうになる。微妙な滝もあるが、殆どの滝は直登可能。高巻きが連続する朝日のなかで、ここは上越の溪と間違えてしまうほどだ。

核心は何と言っても標高 385m で出合う 10m 大滝とその上部の 3 連瀑帯（落差は 30~40m）だ。ここは両側が立って全く手が付けられないので、左岸のスラブ壁を大きく巻くようにトラバースして巻いた。急傾の巻きで緊張する場所だ。この手の斜面を得意としない同行がいる場合はザイルを使用する等慎重に対応してほしい。この先も標高 590m まで傾斜を増しながら延々と連瀑滝が続く。滝と滝の間にナメが交錯するようになって一層渓谷美に拍車がかかる。

（写真 2）前半の連瀑より若干嫌らしい箇所もあるが、沢登りの醍醐味である滝の直登が楽しめる。自分の手帳で滝は大滝を挟んで前半 25 個後半 20 個もあった。入渓点から標高 600m まで沢の距離は約 2 キロの間に、中間の大滝を含めると約 50 個の滝を落としていることとなる。

標高 590m 以降一気に斜度は無くなり、ゆったり蛇行する天国の溪相に変わる。標高 625m の 1 対 1 の枝沢を分けると水量も減ってヒタヒタ歩く沢旅気分が味わえる。標高 630m 少し手前で左岸から細い支流に出合う。藪を少し掻き分けると沢と並行して踏み跡を見つけられるのでそれを辿っていく。沖庭神社周辺のブナ林はたいそう美しく神秘的森であった。40 分ほどで沖庭神社下經由電波棟のある林道に出られる。携帯圏内（ドコモ）なのでここでタクシーを呼び入渓点まで戻った。あーいい沢でした。

（記：青木）